

ひたちなか市 自治会連合会だより

第69号
発行日 2021年2月25日
発行者 ひたちなか市自治会連合会
広報委員会
(事務局:ひたちなか市市民活動課)
TEL 273-0111

コロナ禍における自治会活動の再開

新型コロナウイルス感染症は全国各地に猛威を振るい、自治会においては、人が集まったの会議やイベント等の延期・中止が相次ぎ、情報交換や住民交流が困難な状況になっております。

このような状況の中、感染症対策を講じながら、活動や事業を再開した自治会がありますので、ご紹介いたします。

朝市の開催 - 富士山自治会 -

地域住民の交流の場として、8月から毎月第2日曜日に富士山公園で朝市を開催しています。朝市は、会場を盛り上げるBGMが流れる中、会長の挨拶で始まります。地産地消を目指す農協婦人部の協力により、新鮮な野菜のほか、つきたてのお餅やお赤飯、季節の果物などが朝市を彩ります。朝市を利用する地域の方からは、「朝市に来ると皆に会えて楽しい」、「スーパーまで行かなくても近場で買い物ができる有難い」、「早起きして、外に出るのは健康にもいい」など大変好評です。朝市を企画した中村会長は、この朝市を通して、地域



11月8日(日)に開催された「朝市」の様子

的な地域の交歓の広場へと発展させるような自治会活動を目指していきたいと語っていただきました。

「楽しく歩く会」ノルディックウォーキングを開催 - 弥生西谷津自治会 -

11月1日(日)「はにわ公園」にマスクをした方々が集まってきました。受付で検温を行い、お茶とノルディックウォーキングボールを受け取り、総勢35名で「国営ひたち海浜公園」を目指して出発しました。「楽しく歩く会」は天候に恵まれることが多く、今年も快晴でした。片道約4kmの距離を楽しくのんびり歩き、約45分で海浜公園に到着しました。公園に入場し、翼のゲートをバックに記念撮影をした後は各自自由行動です。昼食後、例年であれば、多くの方が総合運動公園で行われている「産業交流フェア」を楽しんで帰宅するのですが、今年は中止となり、そのまま帰宅の途につきました。



「楽しく歩く会」に参加された方々

コロナ禍の中、高齢者クラブも活動を自粛しており、参加した人たちは久しぶりに青空の下で運動とおしゃべりを楽しんだ1日でした。

紹介します!!

ひたちなか市自治会連合会「おとなりさん」 マスコットキャラクター

昨年度発行された自治会活動ガイドブック。

今回、ガイドブックに起用されたキャラクターは動物のカワウソをモチーフにしています。

カワウソは、家族や仲間との「つながり」を大切にし、しっかりと役割分担をして集団生活を送っている動物です。

自治会は、住民同士の「絆」を大切にしている組織です。

カワウソと自治会には、仲間との「つながり」や役割分担という共通点があるため、「おとなりさん」をひたちなか市自治会連合会のマスコットキャラクターとして起用しました。

イラストは、おとなりさん(住民)が愛情を込め、お花(自治会)を育てている様子です。

あなたも一緒に地域づくりに参加してみませんか。地域は、住民参加と愛着で育っていきます。

ぼくの名前は
「おとなりさん」だよ!
覚えてネ!

おとなりさん





元聖火伴走者の独り言



新型コロナ禍の収束が見えず、自治会活動としても自粛せざるを得ない状況が続いています。さて、2020年東京オリンピック・パラリンピックも1年延期となり、その開催も不安視するところではありますが、是非開催にこぎつけてほしいと思います。

その中で聖火リレーが2021年3月よりスタートすると発表がありました。今回の聖火リレーのランナーは1人で200mを走るもので公募より選出するとのこと。

1964年に開催された東京オリンピックの時は先頭に聖火、後続に伴走者20名(縦2列)で、しかも全員が学生(大学生～中学生)により編成され、約2kmを走ったものです。生涯一度のイベントであるオリッ

クに若者が参加することにより、これからの若者達の成長に大いに寄与されると思われるため、少しでもスポットライトを当ててほしかったものです。

しかし、今思えばコロナ禍でのソーシャルディスタンスから見ると、聖火ランナー単独走は理にかなっていて、先見の明があったと思わざるを得ないものです。



泪橋～浅草間を走る
元聖火伴走者

[常葉台自治会 保永和勇会長
(左列後ろから2人目)提供]

リーダー研修会

11月21日(土)に市文化会館小ホールで、市自治会連合会主催のリーダー研修会を開催いたしました。

講師はつくば市スマ・エコシティ つくば研究学区区会の元区長の仲村健氏で、演題は「持続可能な区会運営を見据えたICT化への取り組みについて」です。

仲村氏は、区会の活動に積極的にICTを活用された方で、自らの経験を踏まえ、グループウェアを導入した経緯や活用内容、利便性、運用方法、課題などについて懇切丁寧に説明がありました。

本市では、メールやワード、エクセル、ホームページを活用している自治会はありますが、ICTの十分な活用には至っていないのが現状です。

今後、自治会への多年齢層の参画、リモート会議など参加方法の多様化、ペーパーレス化によるコスト削減、自治会と行政、住民間での情報ツールの多様化など、利便性・即時性の高いICTを自治会活動に積極的に活用することの大切さを感じた研修でした。



市長との意見交換会

大島地区

8月25日(火)に大島コミセンにて大谷市長との意見交換会が開催されました。冒頭、市長より「新型コロナウイルス感染症への対応」及び「ひたちなか市の現状と課題」について説明があり、その後、大島地区内自治会長及びコミセン役員との意見交換が行われました。大島地区が抱える多くの課題について質問・意見が出されましたが、中でも大島地区に係る土地利用として市側が提案している新中央図書館整備計画について報告します。

市では、新中央図書館の候補地について、いくつかの候補地を設定し、どのような観点で図書館を考えていけばいいのか、立地のメリット・デメリットなどについて検討を進めています。大島地区内にも候補地があることから、今後、検討を進めるにあたっては特に地域住民との意思疎通が重要となることを市長へ表明しました。



おなか山公園祭りの開催

10月31日(土)に、磯崎小学校の「磯っこまつり」開催に合わせ、磯崎自治会では近くのおなか山公園でウォークラリーを行い、その後小学校の校庭にて、豚汁や焼き芋などを振舞う「おなか山公園祭り」を開催しました。

おなか山公園は、県の補助金を活用して、磯崎自治会が地域の繋がり、憩いの場として、約10年前に整備した広場です。広場で開催するお祭りも数年前から恒例となっている行事で、今回は磯崎小学校の学校統合に伴い、「より多くの思い出を残したい」と自治会役員や地域の方々に、前日から食材の下準備、会場の整備など大変手を尽くしていただきました。

コロナ禍のため、手指の消毒、マスク着用等の感染症対策を講じた上での開催にはなりましたが、無事開催できたことは、保護者の方々や先生方、地域の皆様のご協力のおかげです。

また、お祭りに参加した子どもたちが喜び、はしゃぎ、笑顔になって秋の幸を頬張る姿は私たち大人の心を和ませてくれ、本当に微笑ましい一日でした。

時代は変わり、磯崎小学校が閉校となったとしても、子どもたちを育て、地域の繋がりを継承していくことは変わりません。

磯崎自治会では、今後も世代を超えた繋がりを大事に、互いに協力しあえるまちづくりを担っていければと思っています。



磯崎小学校の子どもたちと地域の方々

地域清掃活動に参加

1年ぶりに地域清掃を行いました(馬渡自治会)

厳しい冷え込みとなった師走最初の日曜日に、役員・組長約40名が参加して地域清掃を行いました。今年は、新型コロナウイルスの影響により春は中止になったので1年ぶりの清掃活動となり、5つの班ごとに、約1時間かけ地域内道路のごみ拾いを行いました。

ネットなどで訪日外国人は、「日本は道路など公共の場にごみが捨てられてなく驚くほどきれいだ」などと称賛しますが、大都会だけのことではと赤面してしまいます。それほど我が地域にもたくさんのポイ捨てや不法投棄されたごみが散乱していました。

総ての人が自分の家と同様に思ってくれば、ポイ捨てなんてできないと思うのですが…



地域清掃の日(平磯自治会)

新型コロナウイルスの影響で年間のいろいろな自治会活動を中止せざるを得ない中、地域清掃は野外活動なので、役員の方と相談して実施の決定をしました。

また、平磯笑福会、南町笑福会の高齢者クラブの方も参加を頂き、150名余の参加者で11月29日(日)に平磯漁港から平磯海浜公園までの海岸線を清掃コースとして、全員マスク着用の実施と、3密回避のため、人と人との間隔を取って作業するようお願いを致しました。

ペットボトルや空き缶その他海岸に流れついた漂流物を拾い集め、また県道水戸那珂湊線の道路脇の草取り除去を行い、海岸線を綺麗にする事ができました。

会員の皆様方、大変ご苦労様でした。



自治会トピックス

高齢者対象事業を再開

堀口

新型コロナウイルス感染予防のため、3月から高齢者サロンや元気アップ体操を自粛してきました。

長期の自粛で高齢者は、運動不足による筋力低下や人との接触減少で認知症のリスクにさらされていました。このような状況を続けていけば、高齢者の体調が心配になりました。

マスク着用、手指消毒、検温、換気、イス及びテーブルの消毒を徹底。さらに、参加者同士のシールド（間仕切り）を手づくりし、できるだけ感染予防対策を講じて、10月から再開することにしました。

7ヵ月ぶりでの再開で、参加者から「楽しみにしていた」との声が寄せられました。



“かんそいも”

前渡

12月に入ると、前渡地域ではかんそ芋作りが始まります。今は干芋と言いますが、乾燥芋が古くからのなじみです。正式には甘藷蒸切干というそうです。

乾燥芋作りは明治40年ごろ、農閑期の副業として静岡県より移入しました。当時薩摩芋栽培の北限で主消費地の東北・北海道や樺太に近かったこと、冬の日差しと乾燥した北西の風が丁度良かったようです。爾来100年日本一の産地として全国に届け、多くの人々に食されております。これからも本家茨城の乾燥芋発祥の地より、ほっこりと全国に届け続けたいと思います

※写真のポスターは大正時代の販促ポスターです。当時の事務局が前渡村役場にあったことが読み取れます。



大正～昭和初期の茨城県那珂郡甘藷切干業組合の干しいも広告
(ひたちなか・東海・那珂ほしいも協議会提供)

コロナ禍で自治会ができること

外野

外野自治会では、隔年事業として「外野夏祭り」を実施していますが、新型コロナウイルス感染予防のため、今年は中止せざるを得ませんでした。

会員の皆さんが楽しみにしている、夏祭りの代わりに会員の皆さんに喜んでもらえることはないだろうかと考え、「会員全世帯にプレゼント」をしたらどうだろうかということになりました。全家庭が喜ぶようなものは何か、全家庭にどのように配布するかなどを考え、ひたちなか産の1等米3kgとごみ袋を全世帯、約630世帯配布しました。

組長さんをはじめとする自治会役員一同が、一丸となって実施した事業なので、会員の皆さんに喜んでくれたことと思います。



慣例が通じない今年の自治会活動

西大島

新年度、書面表決という異例の採決で決まった総会。初顔合わせの役員会の実施もままならず、春風吹く芝生の上で行いました。内心、感染リスクはないか心配もしました。すべての活動がストップし、公園除草作業ですら、実施するか議論を重ねる必要がありました。コロナ感染防止は、いくら労を尽くしても万全とは言えません。例年なら、迷うことなく実施できていた活動も、内容の変更や人員の削減をせざるを得なくなりました。

その一例は、自治会主催の救急救命講習会です。例年は、30名程度の班長・組長を対象に、半日180分コースで実施していました。

今年は、受講者を2分し、3密を避け、マスクやビニール手袋の着用、換気、手の消毒や検温等を行い、半日ずつ2回実施しました。

地域のために活動したいのですが、コロナ禍という見えない魔物が立ちまわります。今はとにかく、安心して活動ができる日が待たれます。



編集後記

昨年は、新型コロナウイルス関連のニュースで明け暮れた一年でありました。

安心・安全な地域は、“顔が見える人間関係づくり”が大切ですが、人が多く集まる事業は、やむなく自粛せざるを得ない状況でした。

感染拡大は、やがて歯止めがかかり、必ず収束時期が訪れるはずですが、それまで力を蓄え、地域コミュニティがさらに発展するよう願っています。

本年も自治会連合会の運営に、ご理解とご協力をお願いいたします。

自治会についての詳細情報は、市のホームページにも掲載しています。

<https://www.city.hitachinaka.lg.jp/shiminkatsudo/4/5/index.html>

